

校長だより

兵庫県立伊川谷高等学校

August 8th, 2022

主体的・対話的で深い学びの実現のために

○8月1日（月）に星陵高校同窓会館で令和4年度神戸地区県立学校臨時的任用者講習会が開かれました。これは神戸地区の県立学校に勤務する臨時講師の資質向上を目的とするものです。当日は3人の担当校長が、それぞれ「服務と勤務」、「学習指導」、「生徒指導」という内容で、35名の臨時講師に講義を行いました。

○参加した臨時講師は、様々な校種の学校に勤務し、専門教科も違います。また講習会に臨む姿勢、意識にも差があると感じました。

○私は、「学習指導」を担当しました。その講義内容の一部を再現・紹介します。

○「居方」（佐藤学著「教師花伝書」より） 「居方」とは佐藤学氏の造語で、教員が授業に臨む際の生徒との関係の作り方、位置の取り方を示す言葉です。居方が、授業の成否を左右します。この居方の説明は、臨時講師を前にして講義を始めようとする自分に対して言い聞かせるものでもありました。

○「生きる力を育む教育とは」 高校生の自死の原因で最も多いのが、学業不振です。自死の未然防止のため、授業を中心とする教育活動をとおして共感しあえる人間関係づくりや困ったときに相談できる力を育てること、さらには生徒の自尊感情を高める必要があります。生きる勇気が湧いてくるような授業を作っていきたいと思います。

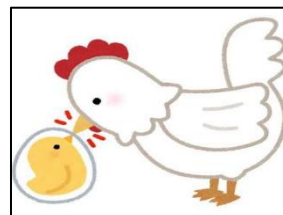
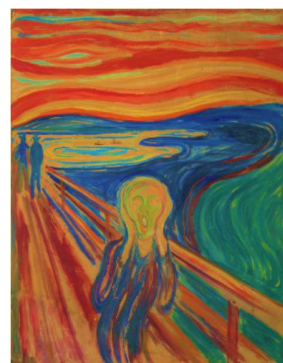
○「アクティブラーニング」 「ムンク作の絵画『叫び』は、何が叫んでいるのだろうか？」 アクティブラーニングの手法を使い、3人の参加者に協力してもらい、絵画に登場する人物を演じてもらいました。

○「この絵は何が叫んでいるのだろうか？」と問いました。答えは、「絵画中の人物（ムンク）が叫んでいる」でした。しかし、ムンク自身の証言「大きな叫びが自然を通り抜けた」を説明し、それを手がかりに、「中央の人物は、耳を塞いでいるのであり、叫んでいるのは自然である」と答えを得ました。

○「思考力・判断力・表現力をどう育てるか」 さらに、当時のムンクの家族や健康等の状況、そして19世紀末のヨーロッパの社会的状況を説明し、改めて「何が叫んでいるのだろうか？」と尋ねました。「やはり叫んでいるのはムンク自身ではないか」、「世紀末の時代が叫んでいるのではないか」、「絵を見ている自分自身が絵と共鳴して叫んでいるのではないか」と答えることもできます。生徒たちが知識・技能を生かし、思考力・判断力・表現力を働かせるしかけをつくるのが大切です。

○「^{そったく}啐啄同時」 禅宗の師が修行中の弟子に対し、絶妙のタイミングでヒントを与え、悟りに導く様子を示す言葉です。「思考力・判断力・表現力をどう育てるか」この問いを解くヒントが、「啐啄同時」にあるように思います。教員が生徒を注意深く観察し、タイミングを逃さず、効果的な問いを示すことが生徒の力を引き出す上で重要です。

○「授業の技術を磨こう」 主体的・対話的で深い学びの実現のためには、教員自身が技術を磨く必要があります。「授業の腕を上げる法則」（向山洋一著）を紹介します。これらの教育書を読んで技術を磨き、生徒たちを深い学びに導いてください。また、専門書にあたり、著者が示すオリジナルの考えに触れるなど、教科の専門性を高めて欲しいと思います。地道な教材研究の中で思考力・判断力・表現力を育てる種は、必ず見つかります。



「主体的、対話的で深い学び」の実現のために



主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善にチャレンジしていきましょう。